

令和4(2022)年度 住まいとコミュニティづくり活動助成 活動中間報告

団体名

殿川の活性化に取り組もう会

活動のテーマ

限界集落の空き民家を地域の活動交流拠点に高める活動

9月までに達成できた事項(箇条書き)

●空き家の利用交渉と掃除、補修(1-①、②)

地区内にある空き家の利用交渉をおこない、団体として賃貸契約をおこなった。4月中は、建物内部の清掃と、家屋の周囲の不用品の処理をおこない、除草作業を定期的におこなった。家屋の状態を確認し、屋根の一部補修をおこなった。この空き家を地域の活動交流拠点「トノカツオフィス」として場所開きする準備をおこなった。

●看板設置、イベント開催、地域交流拠点の場所開き(1-③)

5月には、集落への登り口から集落入口までの林道に、手作りの案内看板を常設で設置した。5月5日、集落内の山椒加工+ジビエ加工場で、フリーマーケット&フード試食イベントをおこなった。当地でイベント開催をする場合に考えられる、さまざまな検討事項を抽出して、話し合いを重ね、イベント「とのがわの自然をまるごと体験」を実施した(8月6~7日)。地区内5か所では、団体メンバーが、木工、山椒つみ、和紙小物作り、ラジオ作り、ドラムワークショップ、飲食提供などをおこなった。そのうちの1か所として、地域交流拠点「トノカツオフィス」を開放し、複数のワークショップを建物内と外でおこなった。

今後の活動予定と令和5年3月末時点の達成予定事項

10月以降は、地域交流拠点「トノカツオフィス」内部の整備をさらにすすめる(2-①)。

11月23日(祝)には、「トノカツオフィス」を使って、自然エネルギーに関するイベントをおこなう予定である(太陽光発電のワークショップ、小水力発電の水車の展示、特産品をつかった食品販売など)(2-②)。

12月には、当団体が加盟している、吉野町の移住対策協議会主催の移住体験ツアーを受け入れて、地域交流拠点「トノカツオフィス」を紹介しながら、来訪者向けに当地での移住経験について話す予定となっている。

団体名：殿川の活性化に取り組もう会（トノカツ）

活動のテーマ：限界集落の空き民家を地域の活動交流拠点に高める活動

●助成対象活動に至った理由や背景

殿川集落は、奈良県吉野町の東端に位置する戦後開拓村であり、標高約 500m の地域に 8 世帯（11 名）+2 拠点居住の 5 世帯（10 名）が住んでいます。第一世代（入植者）は大半が亡くなり、第二世代は市街地へ転出し、集落の役割を終えつつありました。

しかし、2014 年に移住者が転入して、当団体の活動を開始したのをきっかけに、空き家への入居が増えていきました。さらに、2019 年コロナ禍をきっかけに、移住者と先住者との交流が深まり、各自の活動を応援して協力しあう気運が高まりました。

そこで、これらの住民活動を連携して集約する「活動交流拠点」をつくり、集落全体の魅力を発信したいと考えました。本団体は、それぞれユニークな生業や活動をおこなっているメンバーで構成されています。「活動交流拠点」を中心に、メンバーの活動を発信して、地域の魅力を PR し、関係人口の増加、移住や二拠点利用の増加へとつなげていきたいと考えました。長期的には、限界集落である当地存続への、将来を見据えた取り組みとしていくことを目指して、本活動をスタートさせました。

●9月までの活動の進捗状況

1. 活動交流拠点「トノカツオフィス」の整備（4月）

殿川集落内の空き家の利用交渉をおこない、団体として賃貸契約をおこなったのち、建物内部の清掃、屋根の雨漏り補修をおこないました。また、屋敷まわりの庭、耕作放棄された畑の除草作業を月 1 回のペースでおこない、屋敷まわりの小屋の内部の荷物の片づけ・一部処分をおこないました。

高齢の地域住民が、掃除の様子を見に立ち寄るなど、この空き家で今後おこなわれる活動について興味を持ってもらう機会になりました。



2. PR イベントの実施、活動交流拠点「トノカツオフィス」の場所開き（5月～9月）

★看板設置とフリーマーケット開催（5月5日）

当地は、集落への入り口が非常にわかりづらく、目印もないため、来訪者が道に迷うことが何回もありました。

さらに、入り口から集落の入り口までは、1.5キロの山深い林道を通ることになり、この道を通行して良いのか、この先に集落があるのか不安になる、という意見が多く聞かれました。



そこで、当団体では、案内看板を自作して、集落までの林道の各所に設置しました。木材は、運営メンバーの木工所から、吉野材を提供してもらいました。色が明るくてわかりやすい、可愛らしい、人の暮らしの気配が感じられる、と好評です。

5月5日（祝）には、集落内の山椒加工+ジビエ加工場で、フリーマーケット&フードイベントを開催しました。子ども向けにはバームクーヘン作りをおこない、手作りピザや殿川集落の特産の山椒をつかったクラフトコーラを販売したり、フリーマーケットをおこないました。

本イベントでは、活動のPRをおこなうとともに、来場者の属性の傾向を知り、来場者の動線確認、危険個所の把握、駐車場をどこにおくかなど、次回イベントへの検討事項について話し合いました。



★ 地域交流拠点「トノカツオフィス」の場所開きと 「とのがわの自然をまるごと体験」イベント開催（8月6～7日）



8月6～7日、「とのがわの自然をまるごと体験」イベントを開催しました。奈良県下の全小学生に配布される『山の日・川の日 イベントガイドブック』に掲載を依頼して、殿川地区を広く周知しました。本ガイドブック経由およびSNSからの当団体ホームページアクセス数は、900を超えました。

当日は、地区内5か所で、木工、山椒つみ、和紙小物作り、ラジオ作り、ドラムワークショップ、飲食提供などをおこないました。そのうちの1か所として、地域交流拠点「トノカツオフィス」を開放し、複数のワークショップを建物内と外でおこないました。

本イベントの予約人数は60名を超えていましたが、新型コロナ第7波のピークと重なったため、体調不良による直前キャンセルが相次ぎ、実際の来場者数は約半数となりました。しかしながら、村外在住の元住民がふらりと参加したり、運営メンバーに若手住民が新たに入ってくれることになったり、東京からの来訪者が飛び入りで手伝ってくれたり、とても活気あるイベントとなりました。



年長の運営メンバーからは、このようなイベントを毎年継続したいという、前向きな意見がでました。

● 今後の活動予定

10月以降は、地域交流拠点「トノカツオフィス」内部の整備をさらにおこなっていきます。

11月23日（祝）には、「トノカツオフィス」を使って、自然エネルギーに関するイベントをおこなう予定です（太陽光発電のワークショップ、小水力発電の水車の展示、特産品をつかった食品販売など）。

また、12月には、移住対策協議会主催の移住体験ツアーを受け入れて、当地のPRをおこなう予定です。